

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170200507
法人名	有限会社 久里の里
事業所名	グループホーム 久里の郷
所在地	佐賀県唐津市久里1130-8 (電話) 0955-78-3811

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成21年2月25日

## 【情報提供票より】(平成20年10月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤6人,	非常勤4人, 常勤換算 7.8人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	320 円	昼食	530 円
	夕食	530 円	おやつ	円

## (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	河畔病院・みのはら歯科・森永胃腸科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには、畑があちこちに見られ、車の通りも少なく、自然が豊かな落ち着いた環境である。管理者の「自宅ではないが第2の住まいとして安心して過ごせる場を作りたい」との思いで、本人の思いに寄り添いながら、地域や家族とのかかわりを大切にしている。外泊中の方や入院されている方から、早くホームに帰りたいという言葉が聞かれるなど、家庭に近い雰囲気が作られている。スタッフの方も働きやすい環境ということで、離職者は少ない。
---

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、改善課題となった水分の管理については会議で話し合い、必要な水分量を摂取できるように、食事からの水分とおやつの際に飲み物を提供するということが1日1000ccが確保されるよう一人ひとりの状況を記録している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価を質の改善の場ととらえ、評価に前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は事業所の報告だけにならないように工夫し、認知症の理解の場ととらえて、情報を発信し参加された方と共に理解を深めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には「何かないですか」などの声かけをし、できるだけ家族が意見を言いやすい雰囲気を作るようにしている。家族からの意見は、スタッフの伝言ノートに記入し、全員が確認している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として、地区の運動会や敬老会にも参加している。今年度は、地区の地域活性化事業として、凧揚げ大会が行われる予定で、事業運営にも協力している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安心して過ごせるように、家庭的な環境を大切にし、家族や近所の方との関係が継続できるような理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフが毎日記録で使用するカードックスに貼るなど、日頃から目につくような工夫がなされている。スタッフ会議の時に、管理者が理念について触れ、意識付けしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、地区の運動会や敬老会に参加している。今年度は、地区の地域活性化事業として、凧揚げ大会が行われる予定で、事業運営に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で課題となった事項は職員で共有し、サービスの質の向上へと取り組んでいる。評価を質の改善の場ととらえ、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は事業所の報告だけにならないように工夫し、認知症の理解の場ととらえて、情報を発信し参加された方と共に理解を深めている。	○	会議の議事録はパソコンに保存されているが、検討事項や会議出席者からの意見などは全スタッフが内容を共有し、更なるサービスの質の向上につなげられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や問い合わせに直接行政の窓口に行き、担当者との関係づくりに努めている。行政の担当者もグループホーム交流会へ参加されることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の支払をホームに来ていただくようにして、家族訪問時に状況を報告している。遠方の方には、定期的に電話で連絡している。また、定期的に新聞を発行し暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には「何かないですか」などの声かけをし、できるだけ家族が意見を言いやすい雰囲気を作るようにしている。家族からの意見は、スタッフの伝言ノートに記入し、全員が確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、異動がある場合はその都度、利用者や家族へ報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の情報は事務所内に掲示し、参加の希望に対応できるようにしている。研修後は、レポートの提出とスタッフ会議で研修報告するなどし、積極的に職員教育に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なグループホーム交流会で、情報の交換を行い、新しい情報を取り入れることで、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は、見学や体験入所を行ってもらい、本人・家族が納得して利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす生活者として、寄り添いながら、また、人生の先輩として、伝統行事や調理を教えてもらうなど支えあう関係づくりに努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは同じ目線で利用者の表情を見ながら話をすることで、思いをくみ取るように努力している。利用者で外国語をはなされるかたがおられるが、スタッフは外国語の勉強をし利用者の思いに寄り添えるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から今までの生活の様子を聞き、本人の希望・担当スタッフの意見をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議を開催し意見交換後計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施状況の確認や評価を定期的に行い、計画の期間に応じて見直しを行っている。また、定期的なモニタリングを行い、状態の変化がある時はすぐに計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じて、外泊の支援や通院の介助を行っている。主治医と連携を持ち、定期的な往診や24時間連絡が取れる体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に診てもらうことができる。事業所の協力医院から定期的な往診と必要時は専門医の紹介が受けられるようになっている。受診の結果は速やかに家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については入所時に説明を行い家族の意向を確認している。その後、状態に応じ、医師・家族と話し合いを持ちながら、方針の共有を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりが尊重されるように、職員はさりげない言葉かけで誘導や介助をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者はスタッフに職員の都合が優先しないように、と意識づけをおこないながら、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの希望に沿った生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな場面になるように、食器やメニューにこだわり、和食だけではなく洋食も組み合わせるなど見た目の演出にも工夫している。準備や片付けなどは入居者と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由に入浴できるようにしている。入浴されたくない時は、足浴などで対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが役割を持ち生活できるように、掃除や台所の片づけ・ごみ捨て・車いすを押す介助など、できることをお願いし、スタッフは感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、弁当を持ちドライブや買い物など、戸外に出て気分転換を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な生活を支援している。利用者の状態の把握に努め、一人ひとりの必要に応じた見守りを行っている。日頃から近所の方と交流を持ち、近所の方の見守りの協力もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い、緊急連絡体制・マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えたメニューを作り、水分は食事とおやつ の時の飲み物で必要量が確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には椅子やソファが置かれ、好きな場所で過ごすことができる。日当たりのよい場所が多く、日向ぼっこをしながらゆっくりした時間が過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真が貼られたり机を持ち込んだり、利用者の居心地の良い部屋になるようにしている。		